

**第4期郡山市教育振興基本計画策定に係る
郡山ユースワークショップ 開催結果**
「学校のリアルとわたしたちが考える教育の未来—郡山市への提言」



1. 主な提言

グループ名・テーマ	提言要旨
A「みんなが満足する部活動のかたちとは」	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部指導者を招聘し、先生の負担を減らして、部活動時間を増加 (+1h) ● 部活動への参加自体を自由にする。遠距離の生徒も参加しやすいように途中参加・途中退出の自由を認める。 ● 多人数の学校は体育館の使用に限度があるので、地域の体育館を無料開放してほしい。
B「いじめのない学校づくりとより良い人間関係や学校生活に向けて」	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒同士が話し合える機会を道徳や学活の時間を利用して増やしてほしい。 ● 他校との情報交換ができるように他校の生徒と交流できる場を増やしてほしい。例) 生徒会役員等がオンラインで交流
C「より満足度の高い学校行事・生徒会・委員会活動に向けて」	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、ほとんどの活動が先生の指示に従って行われているため、活動等に生徒の意見が反映されるように、先生と生徒が対等に話し合えるようにしてほしい。 ● 学校内だけではなく、地域住民の方々と交流できる行事を行いたい。
D「時代に合った学校のルールづくりとは」	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちが信頼される大人になるために、みんなが納得する校則づくりをしたい。 ● 社会全体の常識と学校の教育目標にあって、自立や判断力が向上するような校則が作られるような基準を作してほしい。
E「今求められる地域や他校との交流とは」	<ul style="list-style-type: none"> ● 各学校や地域の文化を知り、刺激を受けて自分たちのより良い学校づくりにつなげるため、地域や市内外の学校との交流の機会や会場を設けてほしい。 ● いろんな方々と話をしたり、インタビューをしたりすることで、コミュニケーション能力を鍛えるとともに、新たな知識を得、刺激を受けてやる気をだしたい。

F「持続可能な学校、SDGs の取り組みとは」

- すぐに取り組めること、自分たちだけでは取り組めないことを段階的に取り組みクリアしていくようにする。
- 取り組みの見える化をしてほしい。(段階に応じた取り組みがどんな影響を与えることができたかを統計として提示し、学校内だけではなく地域でも共有できるようにする。)
- SDGs の知識を深める機会を設けてほしい。

2. 概要

- (1) 目的：令和7年度から令和11年度の5年間を計画期間とする、第4期郡山市教育振興基本計画の策定にあたり、若者の意見や提案を計画策定に活用するため^{※1}、中学生を対象としたワークショップを開催し、得られた提案や意見を計画策定におけるアイデアやヒントとして活用します。開催結果については、第1回専門分科会(学校教育・生涯学習)で報告します。

^{※1} 令和5年4月に施行された「こども基本法」により、こども施策にこどもや若者の意見を反映する措置を講ずることが義務付けられています。

- (2) 日時・時間：令和6年7月31日(水)9:00-15:00、6時間
- (3) 場所：郡山市役所 本庁舎2階 正庁(グループワーク)・特別会議室(グループ発表)
- (4) 主な内容：①グループワークとディスカッション
②グループ発表と提言
- (5) 参加者：中学2年生26名(市立中学校・義務教育学校、郡山ザベリオ学園中学校から各1名)
- (6) モデレーター・メンター：モデレーターは大学教授等、大学生メンター6名(教職課程の大学生)を各グループ1名配置します。

3. モデレーター

福島大学 人間発達文化学類

^{あつし}
准教授・博士(教育学) 坂本 篤史氏



- (1) 専門分野：教育方法学、授業論、教師論
- (2) 研究内容：小中高等学校での授業研究と教師の学びについて研究
- (3) その他：OECD(経済協力開発機構)ラーニングコンパス(学びの羅針盤)2030 仮訳作成メンバー、市立芳山小学校や金透小学校、橘小学校での公開研究会や安積黎明高校や安積高校での社会活動も多数行っていらっしゃいます。

4. プログラム

時間	次第	内容
8:30-9:00 ^(30分)	開場・受付	郡山市役所 本庁舎2階 正庁
9:00-9:50 ^(50分)	開会・導入	開会・教育長挨拶・導入・アイスブレイク
9:50-10:00 ^(10分)	休憩	
10:00-12:00 ^(120分)	グループワーク	テーマ毎にグループディスカッション
12:00-12:45 ^(45分)	昼食休憩	
12:45-13:30 ^(45分)	グループワーク	グループ発表準備
13:30-15:00 ^(90分)	グループ発表・提言・講評・写真撮影・閉会	各グループ6-8分程度の発表、質疑応答、講評、写真撮影等

5. グループワークの進め方

- (1) 提出いただいた事前課題シートを参考にグループ分けをしています。1グループあたり4-6名で、6グループに分かれます。
- (2) グループ毎にテーマが設けられています。各グループ、1つのテーマで「①いいところ」「②良くしたいところ」「③郡山市に提言したいこと」を話し合います。
- (3) 話し合った結果をグループ毎に発表し、共有します。

6. グループ一覧

A グループ「みんなが満足する部活動のかたちとは」

No	学校名	氏名
1	郡山第一中学校	ほりえ ぞうすけ 堀江 宗佑さん
2	湖南小中学校	あんどう はる 安藤 春さん
3	郡山ザベリオ学園中学校	はしもと まりあ 橋本 真哩彩さん
★	福島大学	にかいどう ゆうすけ 二階堂 悠佑さん

B グループ「いじめのない学校づくりとより良い人間関係や学校生活に向けて」

No	学校名	氏名
1	日和田中学校	わたなべ みゆう 渡邊 心優さん
2	安積中学校	いけ しょうご 井家 祥吾さん
3	逢瀬中学校	いしい かいら 石井 快空さん
4	片平中学校	すずき あいか 鈴木 愛華さん
5	大槻中学校	ほんだ こころ 本田 心さん
★	福島大学	しおだ こうめい 塩田 孔明さん

C グループ「より満足度の高い学校行事・生徒会・委員会活動に向けて」

No	学校名	氏名
1	安積第二中学校	かじわら ゆうか 梶原 優花さん
2	喜久田中学校	くまだ まお 熊田 茉桜さん
3	守山中学校	はせべ そう 長谷部 想さん
4	高瀬中学校	さとう かのすけ 佐藤 寛之助さん
5	小原田中学校	かめい こゆき 亀井 小雪さん
★	福島大学	おおうち のの 大内 のの 暢女さん

D グループ「時代に合った学校のルールづくりとは」

No	学校名	氏名
1	行健中学校	やぎぬま まりん 柳沼 真凜さん

2	明健中学校	えんどう 遠藤	すずは 涼葉さん
3	郡山第三中学校	すぎた 杉田	きほ 希星さん
4	郡山第六中学校	のぐち 野口	かずま 和真さん
5	富田中学校	いむら 井村	ゆうは 悠葉さん
★	福島大学	たきもと 瀧本	しゅんぺい 隼平さん

E グループ「今求められる地域や他校との交流とは」

No	学校名	氏名	
1	熱海中学校	さとう 佐藤	たいち 太一さん
2	緑ヶ丘中学校	きしもと 岸本	ゆう 悠さん
3	御館中学校	ぐんじ 郡司	ひろなお 裕直さん
4	西田学園義務教育学校	こみや 古宮	こうき 煌生さん
★	福島大学	やまき 八巻	さとみ 叡美さん

F グループ「持続可能な学校、SDGs の取り組みとは」

No	学校名	氏名	
1	郡山第二中学校	かんの 菅野	まみ 麻未さん
2	郡山第四中学校	ほんだ 本田	すずな 涼菜さん
3	郡山第五中学校	もてぎ 茂木	あすか 明日香さん
4	宮城中学校	いとう 伊藤	けんた 健斗さん
★	福島大学	いとう 伊藤	まな 真奈さん

★は大学生メンターの皆さん

7. 開催内容

(1) 教育長挨拶・導入

教育長からの主催者挨拶の後、導入として、モデレーターの福島大学 人間発達文化学類 坂本 篤史 准教授から全体の流れ、グループワークでの話し合いの方法とポイント、そしてグループ発表の方法について説明をいただきました。

その後、大学生メンターさんの企画で、アイスブレイクを実施しました。自己紹介でグループ内の緊張がほぐれた後、チームで協力して行うグループ対抗のお絵描きゲームで、大いに盛り上がりながら、今日初めて会うグループのメンバーとの仲を深めていました。すべてのグループで全員が積極的にアイスブレイクに取り組み、グループワークに向け、チーム力を高めていきました。



(2) グループワーク

参加生徒からワークショップ前に提出いただいた事前課題シートの内容により、6グループ、6つのテーマに分かれ、各テーマで「①郡山市や学校のいいところ」「②郡山市や学校の良くしたいところ」「③未来の学校の姿」そして「④郡山市に提言したいこと」を話し合いました。



A グループ「みんなが満足する部活動のかたちとは」

B グループ「いじめのない学校づくりとより良い人間関係や学校生活に向けて」

C グループ「より満足度の高い学校行事・生徒会・委員会活動に向けて」

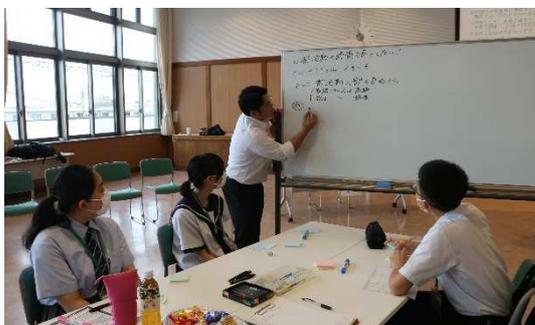
D グループ「時代に合った学校のルールづくりとは」

E グループ「今求められる地域や他校との交流とは」

F グループ「持続可能な学校、SDGsの取り組みとは」

事前課題シートをベースに各中学校の状況やそれぞれの問題意識、意見や将来への希望等をグループ内で議論・共有し、グループ発表に向け、グループとしての意見をまとめていきました。

各グループで様々な疑問や課題が出ましたが、大学生メンターさんのサポート、モデレーターの坂本先生のアドバイスにより、一つ一つクリアしながらグループ発表に向け、準備を進めました。



A グループ



B グループ



C グループ



D グループ



E グループ



F グループ

(3) グループ発表

特別会議室に会場を移し、グループ発表を行いました。教育長をはじめ、郡山市教育振興基本計画審議会委員、報道関係者、参加者の保護者、所属中学校関係者など多くの方に聴講いただきました。

各グループの発表の後には質疑応答の時間も設け、市教育委員会、審議会委員、そして参加生徒からも活発な質問や感想が出され、発表生徒は自身の中学校の例を交えながら、しっかり受け答えをしていました。

グループ発表後、モデレーターの坂本先生から全体の講評、そして教育長からも感想と素晴らしい発表と提言に対し、御礼の言葉がありました。

閉会后、全体の写真撮影を行い、6時間に及んだワークショップは閉会となりました。参加生徒は今日初めて会ったにもかかわらず、最後にはすっかり打ち解け、閉会后もしばらく会場で談笑していました。



8. 提言

(1) A グループ「みんなが満足する部活動のかたちとは」

わたしたちが考える未来の学校

「部活動の時間をもっと長くしたい！」
でも、、、長くしなくてもいい人もいる



自由な部活動

- 勉強や部活動など自分が取り組みたいことに集中できる
 - 自分の個性を伸ばせる！
- 自由→部活動の入部, その日の活動に参加するかしないか
土日で活動する部活動を分ける

わたしたちからの提言

- ・地域の体育館の無料開放をしてほしい。
- ・外部指導者の方を招いてほしい。
- ・規定時間を増やしてほしい。(+1時間くらい)
- ・部活動の途中参加, 途中退出OKにしてほしい。

(2) B グループ「いじめのない学校づくりとより良い人間関係や学校生活に向けて」

他校の生徒と交流できる場をつくってほしい！

学校でのよい活動や学校のよいことを広めるための場

- 生徒が行っていること
 - ・SDGsへの取り組み(残菜ゼロ、節水)
 - 学校で行われていること
 - ・チャレンジタイム(テスト勉強の時間)
 - ・週に一度、サポートティーチャーが来校する
- 〈メリット〉
- ◎学力が上がり、テストの点数が上がる
 - ◎より良い学校生活を送ることができる

他校の生徒と交流できる場をつくってほしい！

〈方法〉

- ・各学校の生徒会役員などがオンラインを使い、他校へと広げていく。

話し合う機会をもっと増やしてほしい！

より良い人間関係を築き、協力し合うことができる

〈メリット〉

- 自分が思っていることを伝えることができる
- 他人の気持ちを理解できる
- みんなで協力しながらいじめをなくすことができる
- 相談しやすい環境になり、安心して生活できる

話し合う機会をもっと増やしてほしい！

〈方法〉

- 道徳や学活の時間を使って話し合いを行う。

〈内容〉

男女間のかかわりが少ないと感じる

⇒男女の交流についてどのような意見を持っているか

(3) C グループ「より満足度の高い学校行事・生徒会・委員会活動に向けて」

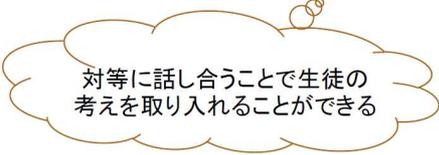
わたしたちからの提言①

小学校や人数の少ない中学校、
地域の方々と一緒に行事を行いたい



わたしたちからの提言②

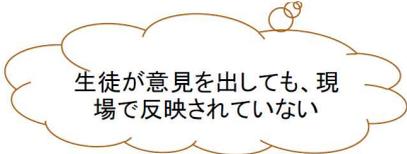
先生に指示されるのではなく、
先生と対等に話し合いたい



対等に話し合うことで生徒の
考えを取り入れることができる

わたしたちからの提言③

生徒の意見が届くような場を
設定してほしい



生徒が意見を出しても、現
場で反映されていない

(4) D グループ「時代に合った学校のルールづくりとは」

目標 みんなが納得する校則づくりに向けて

学校、先生によって校則の基準が異なる

例えば・・・

- ・置き勉禁止の学校と許可されている学校がある。
- ・靴下の色や長さが学校によって異なる。

○なぜこういった校則があるのか？

○あってほしい校則がない！

⇒校則の基準が曖昧！

わたしたちからの提言

○社会全体の常識と学校の教育目標それぞれに合った校則づくり

○自立・判断力の向上ができるような校則づくり

ができるような基準を作ってほしいと提言します！

信頼される大人になるために！

(5) E グループ「今求められる地域や他校との交流とは」

わたしたちが考える未来の学校

☆部活以外でも、他校の人と交流する場をつくっていただき、お互いにコミュ力を磨きながら、学校の特徴を学び合う環境である学校。

☆地区の人とも交流し、地区の伝統や特徴を学べる環境である学校。

わたしたちが考える未来の学校

☆どんな交流？

<対面かオンラインか>

→対面型を中心で行う。

もしコストの面を考えるならば

→市内の中学校・・・対面型　市外・県外・国外・・・オンライン型

<交流規模>

・一人が持つ交流→たくさん持つことが望ましい。

…中学校までは学区内の人としか関わらず、高校では様々な地区から来る。他人とのコミュニケーション能力を磨くため。

わたしたちが考える未来の学校

☆どんな交流？

<年齢・場所>

・中学生を中心に交流する。

①中学生と交流する場合、市内の中学生と交流する。

②同年代や社会人の方々と交流する場合、地区の人をはじめに交流する。

EX)文化祭、地域の祭り、姉妹校との交流、部活動の試合、生徒会サミット

わたしたちが考える未来の学校

☆どんな交流？

<なんのために？>

→社会に出るための必要なこととしてコミュニケーション能力を鍛えるため。

→話すことで新たな知識を得るため。

→刺激を受けてやる気を出したいため。

→お互いの学校の文化について知り、自分たちのより良い学校づくりにつなげるため

わたしたちからの提言

理想に近づくために何ができるか

<自分でできること>

- ・コミュニケーション能力を鍛えるために、友達とよく話す
- ・本を読む
- ・大人の人から話を聞くときは自らインタビューする時間をつくる

わたしたちからの提言

理想に近づくために何ができるか

<郡山市にお願いすること> =ものについて

・交流ができるふれあいセンターのようなもの

・中学生が集まれる大きなホールのようなもの

が欲しい

→作るための材料、資金、機械が大量に必要

⇒どこかの学校や公園、ホールなどを貸してもらう

ゴミを削減するために

〈すぐに取り組みたいこと〉 Lv.1

- リサイクルBOXを設置する。
- 不要になったプリントの裏面を使う。
- 先週分の牛乳の残量を放送する。
- 統計を出し結果を視覚化する。

ゴミを削減するために

〈私たちだけでは取り組めないこと〉 Lv.100

- 学校でゴミ拾いなどボランティア活動をする。(授業時間や夏休みの宿題の一つとして、取り組む。)
- ◎知識を深める
 - ・ゴミ処理場に見学に行く。
 - ・今回のようなワークショップに参加する。
 - ・専門家の話を聞く。
 - ・学校新聞でSDGsについて発信する。→学校から地域へ

わたしたちからの提言

◎SDGsについての知識を深める機会を設けてほしい。

◎私たちの取り組みの見える化をしてほしい。

・ゴミの排出量など私たちの取り組みによって、どんな影響を与えたのかを統計として、提示してほしい。